

学会ホームページの見直しについて

——情報の組織化——

* 22年度から、原島先生が委員長をされている広報委員会に参加している。広報委員会では21年度から、学会活動を広く世の中に宣伝するとともに電子情報通信分野に対する理解を深める情報を提供することにより、いかに本学会のプレゼンス向上につなげるかという、広報活動に議論を集中させつつある。企業でいえばCSR活動のようなものである。

* このような活動を行う具体的な主力メディアとして学会ホームページ（以下HPと略記）をどうするかが現在の議論の中心である。原島先生いわく「中学生、高校生がたまたま本学会のHPにアクセスして興味を持ち、思わず“お気に入り”リストに登録してしまうような魅力あるHPはできないか？」という宿題である。とはいえ、いきなりこのようなコンテンツを考え出すのも至難の技なので、まずは学会HPの現状と課題から議論を始めている。

* 現在の学会のHPを御覧になった方はいらっしゃるだろうか？私も正直これまで余り真面目に本学会のHPを見たことがなかったが、これをきっかけに見てみると、見づらいものが多々ある。広報委員会に参加されているNTT研究所の大野委員を中心に現状を詳細に分析して頂いたが、結論的には「それなりのコンテンツは整備されているものの、ターゲットユーザに応じて必要なコンテンツにできるだけ負担をかけずに到達するナビゲーション等の仕組みに難がある」といえる。その分析結果と再構成の提案について細かく述べるのは紙面の都合上無理であるが、エッセンスだけを紹介したい。

* まず、議論の対象としているHPは本学会のフロントページである。実は、現状本学会に関連したHPには様々なものがあるが、「電子情報通信学会」と検索してトップに出てくるのは<http://www.ieice.org/jpn/index.html>である。これがまずもっての議論の対象である。

* 見直しにあたってのポイントは①ターゲットユーザの特定、②ターゲットユーザとコンテンツのカテゴリー化による情報のひも付けの構造化、タグ付け、更に③特定カテゴリー内でのナビゲーション、検索の充実、といったところであろう。①のターゲットユーザは大きく本学会の会員と一般

のユーザ（本学会に興味を持たれた方、あるいはたまたまHPをヒットした方など）に分けられる。ユーザによってHPへのアクセス目的は異なってくるはずであり、その目的に応じて的確なカテゴリー化とラベリングにより目的の情報に最少のストレスでアクセスできる必要がある。

* 少々小難しいことを書いたが、公共施設のイメージを持つと発想が具体的になるような気がする。市役所や大きな病院といった公共の施設では、一般の来場者とその施設で働く人の場が分けられている。一般の来場者向けの場は職員とも共有されているが、職員の場合はセキュリティ対策の意味もあって一般来場者とは分けられており一般来場者は入ることができない。それぞれのエリアでの利用目的やそのための案内も異なってくる。

* 会員向けの情報はそれぞれのサイトで研究会、会議等の開催、論文誌の発行等日常的に情報共有の場として活用されているが、著作権保護や査読情報の保護といった目的でアクセスは制限する必要がある公共施設の職員向け職場であろう。現在、学会サイトの見直しを行っているWGで検討されているシングルサインオンを含む見直しに該当する。

* 更にこれらのユーザから見た情報の組織化のほかに、コンテンツを提供、維持管理する側面からの情報管理アーキテクチャというべきものがある。年々様々なコンテンツが掲載されるがこれらを更新しつつ古いものはアーカイブしていく必要がある。また、その作業をだれが責任を持って行うかといった整理も必要である。現在、学会内でも広報委員会だけでなく各ソサイエティごと、あるいは論文誌、研究会ごとで日々様々なHPが更新され、また、その機能追加が個別に議論されているが、5年後、10年後を見通した全体のWeb情報アーキテクチャの統一を図っておく必要を感じる。

* 学会HPに限らず、Webが生まれて以来余りにも簡単にHPができるようになって逆に情報の組織化が遅れ、エンドユーザからは不便ではないシステムに変ぼうを遂げてしまいつつある気がする今日このごろである。

（編集理事 三宅 功）